

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

小山小学校 家庭・地域・学校協議会		
地 域	保 護 者	学 校
区長 (2)	P T A会長	校長
鍬踊り保存会 (1)		教頭
主任児童委員 (1)		教務主任
公民館長		
5名	1名	3名

※地域コーディネーター (4名)
・公民館長 ・ P T A副会長 (3)

(2) 協議会の内容

- ①開催回数 3回
- ②開催日程 6/12, 12/17, 2/20
- ③協議内容
 - ・第1回 委員長・副委員長の選出
スクールプランの説明と評価の依頼
今年度の取り組みについて意見交換
 - ・第2回 児童や地域に関する意見交換
児童活動の参観、評価項目の検討
 - ・第3回 学校評価について意見交換
1年間の反省、次年度に向けて

(3) 協議会における成果と課題

成果：重点事項1「地域行事への児童の関わりを増やし、地域の一員としての自覚を高める。」
について委員の方々から保護者と違う観点で、学校教育活動への意見を聞くことができた。
課題：学校評価での教職員・児童と保護者とのずれを精査し、より良い教育活動につなげる。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の方々とのふれあい、関わりを通して、児童がふるさとの良さに気づき、児童自らが地域活動に参画することで、地域の一員である自覚を高め、より愛着を持って行動する心を育む。

(2) 活動の実際

①ふれあい農園活動・収穫感謝祭で世代間交流 (1～6年)

ジャガイモ、タマネギ、サツマイモの定番野菜に加え、各学級で自分たちが栽培したい野菜を考え、地域の方々にその栽培方法や収穫時の注意点を教えてもらい、一緒に作業をした。(年7回の農園活動を行った。)

7月11日に、お世話になっている方々を招待して、収穫感謝祭を開催した。児童は、座席表を兼ねたメッセージ入りランチョンマットを作って班の輪に招き入れ、世代間交流を深めた。

10月3日には、焼き芋パーティーを行った。



②伝統芸能と地域活動の担い手活動（1～6学年）

校区に伝わる「小山鍬踊り、小山農民踊り」を保存会の方々の指導を受け、校内運動会だけでなく地区運動会などで地域住民に披露した。高学年が低学年に教える形ができ、伝統芸能の継承と担い手の育成につながっている。小山小児童（いふりっこ）のイメージキャラクターを活用して、応援団旗を作成し、団員の結束をアピールした。

昨年度から地域の小山地区敬老会及び小山まつりと一体となった児童の小山ふれあいまつりでは、地区実行委員会に自分たちの演目や出店内容、会場配置計画を提案して調整を行い、運営団体の一員として祭りを盛り上げた。出店の1つとしてふれあい農園活動で収穫したサツマイモを来場者に販売した。

6年生のリーダーを中心に役割分担して、縦割り班で活動した。サツマイモ販売ではレシピやメッセージカードを書き、スライムづくりや缶バッジづくり、手作りゲームの各コーナー担当者は、事前の準備や当日の運営を協力して進め、当日は地域の方々との会話も弾み、忙しさの中にも活気溢れる活動を展開することができた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・地域内他団体との連絡調整、まつり前日・当日の作業補助。

（4）特に工夫した事項

上級生が中心となって全学年の縦割り班で活動を進める。上級生は、地域の方々との交流を通して、低学年に活動を教え、活動をつないでいく。

（5）成果と課題

成果：昨年度は地域と一緒に取り組んだ初めての年だったので、思っていることと実際にやってみるものの間に差が見られた。今年度は昨年度の反省を踏まえて、児童たちから活動時間帯や役割分担に関する意見が出てきて、充実した内容へと見直すことができた。

課題：多くの地域の方々に来ていただけるように、公民館とタイアップして周知や招待の方法を児童から引き出し工夫していく。